

生け垣保全委員会だより 第2号

(平成28年7月)

■ホルト・公園等の街路樹調査

生け垣保全委員会は6月、市が管理する公園や団地内道路のホルト（植え込み）などに植えてある街路樹について、手入れ不足や放置により住民の生活面に被害やトラブルを及ぼしていないかをチェックする初の調査を実施しました。委員会だより第1号の「生け垣を枯らした犯人は？」で紹介したように、ホルトのカシ（欒）の枝葉が伸びすぎたため、すぐそばにある住宅の生け垣の日照不良を招き、一部を枯らしている事例が団地内で多数見つかりました。この調査結果を持って、近く安佐南区役所に対して速やかな剪定の実施を要望していく方針です。



梅雨の晴れ間の14日、委員全メンバーと内原環境衛生部長の計6人が参加して調査しました。集会所を午前9時すぎに出て、C→D→B→Aの街区の順でホルトや公園、遊歩道の樹木を見て回り、昼前に終わりました。後日、問題個所ごとに樹木の種類、被害状況などに写真を付けた調査報告一覧を作成しました。

それによると、計35箇所（追加・確認調査を含む）で問題点があることが分かりました。最も多かったのはホルトのカシで、全体の6割を超す22箇所でした。伸び放題の枝葉が民家の生け垣の日当たりを悪くし、ツツジやキンモクセイを枯らしている被害が確認されました。

生け垣以外ではカシの枝が道路に張り出し、背の高いトラックの通行の妨げとなっていました。そのほか、公園や遊歩道で桜の枝が垂れ下がり人がよけて歩いたり、カエデが電線に架かるほど伸びすぎているといったケースも数例ありました。

このほか、樹木関係ではありませんが、中央公園の水飲み場の受水槽やグラウンドの排水溝がともに大量の砂で埋まり、排水が悪くなっている状況も確認しました。合わせて区役所に改善を要望します。

今回の調査で明らかになったのは、植えっぱなしでその後の手入れを怠っている街路樹が多いことです。特に、ホルトに植えてあるカシについては、市が定期的にパトロールしている形跡が見当たりません。「管理責任があるから、いつかは剪定してくれるだろう」と手をこまねいているだけでは状況はよくなりません。その背景には、私たちの身の周りの樹木や個人宅の生け垣に対する関心が低下している事実も否定できません。おかしいと気づいたら環境衛生部または副会長に連絡してください。個別案件でも区役所は対応してくれます。

団地内にはいろいろな種類の樹木が植えてあり、四季折々の樹木ウォッチングが楽しめます。普段から木々への親しみと関心を持たれてはどうでしょうか。

※生け垣保全委員会だよりは随時掲載します。